

マイクロソフト(MSFT)

【セクター】 情報技術

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

米国のソフトウェア大手です。パソコンOS（オペレーティングシステム）の「Windows」、ビジネス・ソフトウェアの「Office」、企業向けクラウドの「Azure」、ネット検索の「Bing」、ゲーム機の「Xbox」、ノートPCの「Surface」、ビジネス向けSNS（ソーシャルネットワークサービス）の「LinkedIn」など幅広い事業を展開しています。これら事業が、モア・パーソナル・コンピューティング（18年6月期売上構成比38%）、プロダクティビティ・アンド・ビジネス・プロセス（同33%）、インテリジェント・クラウド（同29%）などに分類されています。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年6月期	110,360	28,540	3.67	1.68	10.8	19.4	32.0
19年6月期	125,843	36,318	4.68	1.84	13.4	42.4	35.7
20年6月期予想	140,437	40,300	5.26	1.98	16.0	40.7	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

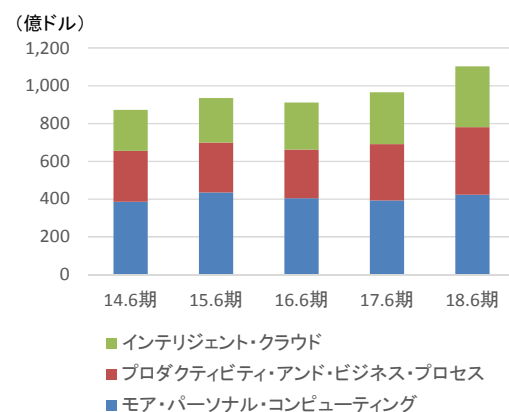
【主要指標】

図表1 クラウドサービスの世界シェア（17年）

企業名	シェア（%）	シェア変化（%ポイント）
アマゾンドットコム	10.5	0.7
マイクロソフト	9.3	1.9
IBM	8.9	-0.7
グーグル	4.5	0.6
セールスフォースドットコム	4.5	-0.2
オラクル	2.8	0.4

（出所）各種報道よりSBI証券が作成

図表2 部門別売上の推移



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

現在成長を牽引しているのは企業向けのクラウド事業です。17年の世界シェアはアマゾンに次ぐ2位ですが、足もとでシェア拡大の勢いが最も強く、世界最大となる可能性もあります（図表1）。同社はメールシステムの「Outlook」やビジネス・ソフトウェアの「Office」などで企業のIT部門とのコンタクトがあることが、クラウドの事業拡大を優位に進められる要因と見られます。

【見通し・注目点】

クラウドサービスの成長、ナデラCEOのもと他社との提携にも積極的でオープンな会社に変わったこと、従来事業での巨大な顧客ベースを生かすことにより、ここ数年10%以上の売上成長が期待されています。19年4-6月期は、企業向けクラウドプラットフォーム「Azure」の前年同期比64%増などが牽引してインテリジェント・クラウド部門は同19%増収を記録しています。また、売上動向を開示している主要な15事業のうち、ゲーム関連を除く13事業が前年同期比増収で、うち9事業は10%以上の増収と全体としても好調が続いています。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 19/8/14）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。